

個人指導を行う指導者は、泳ぎが上手くできない原因がどこにあるのかを見極め、その原因に応じた指導を行うことが必要とされる。

また、そのうまくできない原因は生徒個人により異なるため、1つの指導方法にとらわれずに様々な指導法について認識しておくことが必要である。

指導者が生徒にアドバイスを与える際に前提条件として必要なことは、指導者がその生徒の動きの感覚に共感し理解しようとすることである。生徒と同じ感覚になることで初めてその生徒に則した具体的なアドバイスが出来ることになる。

また、初級者が陥りやすい誤った動きやその原因について事前に理解しておくことは重要である。

しかし、誤った動きの指摘や改善点の指導ばかりでは生徒の自己効力感を下げってしまう。まずは、良かった点をフィードバックし、生徒の運動有能感を高め、肯定的な自己概念を形成させることが重要である。

個別指導では、特に信頼関係が重要となる。指導技術の自己研鑽を図るとともに自らの人格についても高める努力をしていきたい。